

養液土耕栽培専用肥料

専用肥料で肥培管理

養液土耕栽培用肥料は窒素、りん酸、加里と石灰、苦土ならびに微量元素がバランスよく配合されています。また、土壌中に蓄積しやすい成分が含まれていないため、ECコントロールによる肥培管理が正確に行えます。

作物の種類、作型、育成ステージに合わせて必要なバランスの肥料を選ぶことができます。



養液土耕 1号
(生第93012号)



養液土耕 2号
(生第93004号)



養液土耕 3号
(生第93010号)



養液土耕 5号
(生第93011号)



養液土耕 6号
(生第93009号)

製 品 名	保 証 成 分 (%)						配 合 成 分 (%)				
	窒素(AN / NN)	りん酸	加里	苦土	マンガン	ほう素	鉄	銅	亜鉛	モリブデン	石灰 (CaO)
養液土耕 1 号	15.0 (― / 8.5)	8.0	17.0	1.0	0.10	0.10	0.20	—	—	—	6.0
養液土耕 2 号	14.0 (― / 8.6)	8.0	25.0	1.0	0.10	0.10	0.20	—	—	—	4.0
養液土耕 3 号	15.0 (1.0 / 6.5)	15.0	15.0	1.0	0.10	0.10	0.20	—	—	—	5.0
養液土耕 5 号	12.0 (1.0 / 6.2)	20.0	20.0	1.0	0.10	0.10	0.20	—	—	—	3.0
養液土耕 6 号	14.0 (― / 7.3)	12.0	20.0	1.0	0.10	0.10	0.20	—	—	—	5.0

タンクミックスF&B, A&B

隔離栽培に最適、1タンクで調製可能

- ①タンクミックスF/AとタンクミックスBを組み合わせることによって、隔離床を用いた少量培地(土壌)栽培方式に適した肥料です。
- ②1液の濃厚原液に、作物の生育に必要な全ての肥料成分がバランス良く含まれています。
- ③速効性の追肥としても使用できます。
- ④硝酸性窒素割合が高く(全窒素の約9割)、厳寒期でも優れた肥効が期待できます。



タンクミックスF
(生第93006号)
11kgポリ袋入



タンクミックスA
(生第93005号)
10kgポリ袋入



タンクミックスB
(生第91400号)
20kgバグインボックス入

製 品 名	保 証 成 分 (%)						配 合 成 分 (%)				
	窒素 (AN / NN)	りん酸	加里	苦土	マンガン	ほう素	鉄	銅	亜鉛	モリブデン	石灰 (CaO)
タンクミックスF(粉体)	10.0 (1.1/7.6)	17.0	32.0	—	0.30	0.15	0.40	0.004	0.012	0.010	—
タンクミックスA(粉体)	10.0 (1.0/8.0)	13.0	33.0	—	0.18	0.18	0.20	0.003	0.009	0.003	—
タンクミックスB(液体)	8.0 (—/8.0)	—	2.0	3.5	—	—	—	—	—	—	11.0

濃厚原液の調製法 タンクミックスF/AとタンクミックスBは同一タンクに溶解して使用します。

- ・F&B[タンクミックスF11kg(1袋)を約70ℓの水に溶解し、その後タンクミックスB20kg(1箱)と水を加えて100ℓにします。]
- ・A&B[タンクミックスA10kg(1袋)を約150ℓの水に溶解し、その後タンクミックスB20kg(1箱)と水を加えて200ℓにします。]

濃厚原液成分量(g)

タンク ミックス	液量 (ℓ)	保 証 成 分 より 算 出						配 合 成 分 より 算 出				
		窒素(AN / NN)	りん酸	加里	苦土	マンガン	ほう素	鉄	銅	亜鉛	モリブデン	石灰 (CaO)
F&B	100	2700(121 / 2436)	1870	3920	700	33	17	44	0.4	1.3	1.1	2200
A&B	200	2600(100 / 2400)	1300	3700	700	18	18	20	0.3	0.9	0.3	2200

※製品の仕様等については予告無く変更することがあります。

時代が求める革新技術

養液土耕栽培システム



ゆとりと
やさしさの
未来型農業を
実現します。

施肥・灌水の省力化と、 環境に優しい栽培方法を提案します

OATアグリオの養液土耕栽培

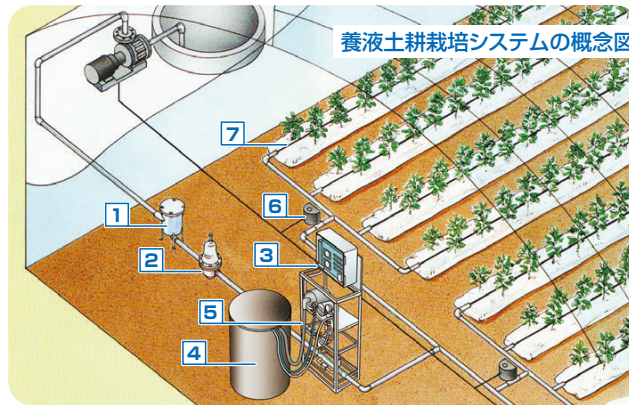
養液土耕栽培は、土のよさを活用しながら養液栽培の施肥の考え方を取り入れた栽培様式です。

◎施肥・灌水は養液土耕栽培システムを使うことで、作業時間が大幅に削減されます。

◎精度の高い混入機や点滴チューブを使用することで圃場内の管理が均一になります。

◎専用肥料は、作物の種類や生育に合わせて選定できます。

OATアグリオの養液土耕栽培システムと専用肥料を使用すると、与えた肥料は作物が効率よく吸収するため土壌中に殆ど蓄積せず、継続的な栽培が可能になります。



システム概要

養液土耕栽培システムは液肥混入機と点滴チューブおよびその周辺部材からなり、設定された養水分を作物の株元へ正確に施与します。

- | | |
|-----------|----------|
| 1 原水フィルター | 5 攪拌機 |
| 2 減圧弁 | 6 電磁弁 |
| 3 液肥混入機 | 7 点滴チューブ |
| 4 液肥タンク | |

効率のよい肥培管理をお手伝いします

ONS-Gシリーズの特長



設置が簡単

設置は主管の接続と原水ポンプ、電磁弁の配線のみで簡単です。

設定が簡単

設定は起動させる時刻、系統毎に給液したい時間、系統毎に給液したい倍率を設定するだけです。

メンテナンスが簡単

動作状況がLEDで確認できるので万一のトラブル時にトラブル箇所が確認でき、部品交換が容易に行えます。

オプション機能

オプション機能が充実しており、あらゆる場面に対応できます。

あらゆる場面に対応できます

液肥混入機ONS-Gシリーズの製品仕様

製品名		S1P-25G	M1P-40G
液肥混入ポンプの数		1 (増設1台可)	1 (増設1台可)
主管口径・流量		25A 2~45ℓ/分 (1系統) ^{※1}	40A 50~120ℓ/分 (1系統) ^{※1}
主要仕様	電気	電源 3相AC200V ^{※2} 系統出力 DC24V 消費電力 1kw以下 ^{※3}	
	タイマー体式 混入コントローラ	液肥ポンプ制御: 標準1台 (最大2台) 混入倍率設定範囲: 27~600倍 給液量制御: 時間制御/水量制御の選択可 電磁弁制御: 標準6・拡張6 ^{※4} (最大12) 給液開始時刻・給液回数: 1日最大16回 (12系統順繰り) / デジタルタイマー仕様 給液パターン設定: A液 / B液 / A液・B液混合 / 水のみ / 給液× (系統個別設定) フリアイ給液制御 (液肥混入可変設定) ^{※5} 水分センサーによる給液制御	
		時刻表示 原水流量・給液残時間・積算量表示 給液履歴モニター表示 (10日間)	
機能		自動・手動運転 外部信号運転 緊急停止 エア抜き機能 攪拌機 (60分自動停止)	
標準装備品		原水ポンプ制御用2.2kwマグネットスイッチ 攪拌機モーター	
本体外形寸法 (mm)		幅560 × 高さ1225 × 奥行き400 (±10%)	
使用範囲		原水圧力: 0.1~0.3MPa 温度: 0~+50℃ 湿度: 80% (+60℃)	
オプション類 ^{※6} (有料)		6系統拡張・水分センサーユニット ^{※7} 水分センサー 日射センサースタート盤 ^{※8} 原水フィルター (ディスク式・スクリーン式) 減圧弁 電磁弁 (DC24V) 原液タンク 攪拌機 点滴チューブ&接続アクセサリ 検査機器 等	

※1 範囲外では、混入倍率の設定が難しくなります。

※2 単相 AC100V への対応も可能。(受注生産)

※3 液肥混入機標準装備品合計 (液肥ポンプ2台の場合) の消費電力。

※4 6系統拡張 + 水分センサーユニットの増設によって、最大12個の電磁弁を制御することが可能です。(給液量・混入倍率・混入パターンの系統個別設定が可能です。)

※5 “フリアイ給液” は同一タイミング内での混入設定量を、給液初期段階で任意 (50~100%) の給液時間 (量) で集中的に混入し、混入終了後は水のための給液を行う機能です。“フリアイ給液” の可変設定時の割合によっては、設定混入倍率の最大2倍濃度で混入運転を行うことになるため、混入設定範囲外となる場合がございますのでご注意ください。“フリアイ給液” は、点滴チューブなどの目詰まり防止を目的とした機能ではありません。チューブ等の目詰まりが発生してもその保証はできません。

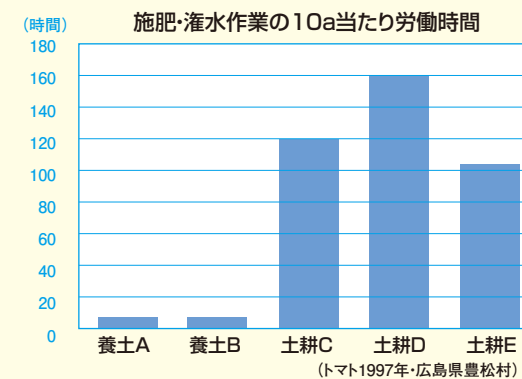
※6 混入する液肥や、電磁弁・点滴チューブ等の部材は、弊社推奨製品をご使用下さい。弊社推奨品以外の液肥・部材を御使用になると、機器トラブルの原因となる可能性があります。

※7 拡張ユニット・水分センサーユニットは一体式です。個別販売はできません。

※8 受注生産となります。(各機器の動作環境はお問い合わせ下さい)

製品の仕様等については、予告なく変更する場合があります。

灌水施肥時間の削減例



養液土耕栽培は、労働時間を短縮します。

根の生育に及ぼす影響



養液土耕区 (専用肥料使用)

慣行区

養液土耕栽培区は、地下部の生育も良好です。

●取り扱い